

8月29日(水) チチェンイツァ遺跡観光 - 31日(金) 帰国

今日はツアー最終の日、6時にモーニングコールがかかり朝焼けの美しいカリブ海のビーチリゾートを散策、朝焼けの風景を撮影した。9時前にホテルを出発しマヤ文明が栄えた世界遺産『チチェンイツァ』遺跡に向かった。マヤ文明は3～9世紀にユカタン半島のジャングルに栄えた文明で『チチェンイツァ』は200年以上にわたってユカタン、マヤ文明における芸術、経済、宗教の中心地であった。

大神殿エルカスティージョは高さ25m、9層の基壇を持つ壮大な神殿である。年2回春分と秋分の日には9層の神殿のなす影が蛇頭をしつらえた中央階段に羽の形となって映し出されるのである。カラコルは古代マヤ人の天文観測台で9mの露台の上に高さ13mの観測台が乗っている。マヤ人たちは月、太陽、星の運行を肉眼で観測することにより、驚くほど正確な暦を作り上げていた。全長150mある玉戯場では勝ったチームのキャプテンが栄光をにない、生け贄として捧げられた。内壁の基壇部分には勝利者が斬首され流れる血潮が7条の蛇となってほとぼしる図が描かれている。聖なる泉カノテは若い処女が人身御供として投下された。また生け贄と同時にさまざまな貢物も捧げられた。現在も泉のあたりには人の生死を分かち独特の雰囲気を感じることができる。『チチェンイツァ』にはバスで往復5時間ほどかかったがさすが世界遺産だけあって、神秘的な古代マヤ文明の一端に触れることができた。夕食はカンクンのダウンタウンの日本食レストラン山本でサヨナラパーティを兼ねて、お刺身、天ぷら、焼き魚と日本食にも良くあうマルガリータで盛大に盛り上がった。

8月30日(木)はいよいよ日本に帰る日、朝4時のモーニングコールで起床し、5時にカンクン空港へ向った。カンクンからヒューストンへはC0265で移動、約2時間15分で着いた。ヒューストンでは乗り継ぎ時間が少なく急いで入国、出国審査を受け成田行きC0007に搭乗、無事成田に帰国した。この8日間色々お世話になった吉野さん、会計の石森さん、同行の皆さん、NOEの鎌田さんに心から感謝申し上げます。









